

日本人の手による初の大土木事業：
湖水の恵みを受けて120年：京都の近代化を支えた琵琶湖第一疏水の第1トンネル



撮影：2010年12月（滋賀県大津市第一疏水トンネル入口）

◆京都近代化を支えた水の恵み

京都市内の灌漑、上水道、水運などを目的とする琵琶湖疏水計画は若手土木技術者の田邊朔郎の指導により、第一疏水が1890年に竣工開通、その後、まかないきれぬ電力需要に対応して、第二疏水は1912年に完成しています。

◆市民に愛される土木施設として

疏水のいたるところにサクラやモミジの植栽で美しい風景資産として演出されています。土木の設計者自らが“用・強・美”を理解することがいかに大事であるかを知らされます。